

小学校高学年における性教育課題

— 生涯学習としての性教育 —

波 川 京 子

〔抄録〕

生涯にわたって学び続けることは、豊かな人生と豊かな老後を経て豊かな終末期を送るために必要なことである。「性」は母胎で生命を受けた瞬間から、その人の人生を左右する最大の要因である。学校教育は100年以上の歴史があるが、性教育はエイズ教育をきっかけに始まったばかりである。生涯学習が人生を豊かにするなら、生命と人間尊重の性教育は生涯学習にふさわしい課題である。小学校高学年の児童と両親への調査から、児童の学びたいもの、教えを受けたい人と両親が意図するものとの間にずれがあり、児童と両親の男女間でも性教育への思いに格差があった。小学校高学年の調査結果から生涯にわたる性教育の課題を考察した。

キーワード 性教育, 生涯教育, 健康教育, エイズ教育

1. はじめに

ユネスコの学習権宣言によれば、「学習権は、人間の生存にとって不可欠な手段である。もし、世界の人々が食料の生産やその他の基本的な人間の欲求が満たされることを望むならば、世界の人々は学習権を持たなければならない。もし、女性も男性も、より健康的な生活を営もうとするならば、彼らは学習権を持たなければならない。……中略……学習活動はあらゆる教育活動の中心に位置づけられ、人々を、成りゆき任せの客体から、自らの歴史を作る主体に変えていくものである。」としている。そこでは、教育を受けることや学習することは、主体的な活動として男女の差別なく、生涯にわたって持つことができる権利として保障されるべきものであると提唱されている。

生涯にわたる学習課題は多々ある。生涯にわたって学び続けなければならない課題に、社会の時事事象や健康、政策などがあるが、人がどこにいても連続性を持つ半永久的な課題は、生

命にかかわるものである。人間が母の胎内で生命を受けた瞬間から、その人生を左右する最大の要因は「性」である。極端に言えばこの「性」の決定で、出生前から既にあきらめの人生が待ち受けているか、待望の未来が約束されるかまでの対極に分かれることまでである。しかしいずれの「性」にしても人間であることには変わりはなく、男性であれ、女性であれその人の人生はその人が主人公であるべきである。

人は人生の主人公になるために学習権を所有し、学習権が行使できる、或いは保障される社会が必要になる。学習権を行使する学習課題は、社会的なものを対象とすることが多い。中でも「性」は社会的なものとしてよりも、むしろ私的なものとして取り扱われてきた。私的なものは性に限らず、主に家庭内で帰結されていた保育や介護も学校教育で取り組む学習課題の対象にはなりえなかった。

ところが、少子化が保育を、高齢化が介護を学習課題に変えていった。同様に、1981年アメリカ国立防疫センターの機関誌で新しい病気として、エイズ（後天性免疫不全症候群＝AIDS）が報告されてからはエイズが社会的な学習課題になった。当初、日本においてはエイズ発症前の HIV 感染者の 7 割が血友病患者であったことから、範囲が特定された中での感染症の扱いをしていた。その後、異性間接触や母子感染により生殖年齢層に身近な感染症であると認識されてからは、エイズ教育が性教育の代名詞のように学校に入ってきた。学校で行われるべき性教育がエイズ教育でいいのか、さらに生涯学習課題として性教育を位置づけるに必要なものは何かを検証した。

2. 目 的

今回生涯学習の課題として、性教育のあり方を取り上げたのは、エイズ問題が社会問題化して、性教育の必要性が出されてきた平成元年（1989年）の教育指導要領にも、「性」の文言が表立って出てこないからである。平成元年の小学校学習指導要領に書かれている保健学習の内容は、①体の発育と心の発達、②けがの防止、③病気の予防、④健康な生活でしか構成されていない。

平成6年度文部省編「我が国の文教政策」の「健康教育の充実」では、「近年の都市化、情報化、核家族化、少子化など社会環境の急激な変化は、子どもの心身の健全な発達に様々な影響を与えている。また、国民の健康に対する関心が一層高まってきており、心身の健康の保持増進を図るために必要な知識及び態度の習得に関する教育である健康教育がますます重要になってきている。学校においては、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うことになっており、保健、安全、給食の各分野にわたる指導が、「体育」、「保健体育」等の各教科、「道徳」、「特別活動」など教育活動全体を通じて実施されている。」と書かれているだけである。続く「当面する健康問題への対応」で「エイズ教育の充実」が出てくる。文部省がエ

イズ教育の充実で求めているのは「エイズを予防能力や態度を育てるとともに、エイズ患者・感染者に対する偏見や差別を除き人間尊重の精神を育てることが重要である。」として、文部省は教職員の研修、教材の配布、指導資料の作成・配布などを行っているのであるが、はたしてこれでいいのだろうか。確かにエイズ教育は性教育を学校で行う糸口にはなったが、「人間の発達段階に応じた性教育」にはまだ遠い。

そこで現在小学校6年に在籍する児童とその保護者を対象にして、児童が求める性教育と両親が考える性教育を両側面から調査した。「学校においては、生涯を通じて健康で安全な生活を送るために基礎を培うこと」とされていることから、生涯学習の基礎能力を付ける小学校の教育で、社会に関心や興味を持つことは重要である。小学校の性教育の目的は児童が性を肯定的に受け止め、生命と人権を基本にする生き方を薫育することにあると考える。

3. 方 法

O市内の公立小学校6年で担任の協力が得られた3クラスの児童105名と、両親の協力も得られた1クラスの児童35名とその両親65名を調査対象とした。対象は児童数140名と両親65名である。調査方法は調査紙による記述式である。記述方法は、児童においてはクラス会等の時間に教室内で記述し、両親はPTA行事後に配布、その場で記述された調査紙を回収した。

回答のあった男児58名、女児62名の120名とその親である父親19名、母親27名の46名をそれぞれを分析対象とした。回答のあった両親の年齢区分は35～39歳22名（父親8名、母親14名）、40～44歳20名（父親8名、母親12名）、45歳以上4名（父親3名、母親1名）、回収率は児童85.7%、両親70.8%であった。

4. 結 果

1) 児童が持つ性のイメージ

小学校6年の児童が「性」という言葉から受けるイメージをプラスとマイナスに対比させたところ、“よい”が38.3%でもっとも高く、続いて“まじめな”が33.3%、“恥ずかしくない”が24.2%、“幸せ”が21.7%、“興味がない”が15.8%と、5位までのうち4つが、プラスイメージに分類したものを選択している。その中で男児が女児を上回るものは、“よい”と“まじめな”と“幸せ”で、逆に女児が高いのは“恥ずかしくない”と“興味がない”である。女児の“恥ずかしくない”と“恥ずかしい”、“興味がある”と“興味がない”はいずれも男児を上回っていた。“恥ずかしくない”は27.4%あり、“恥ずかしい”は11.2%と“恥ずかしくない”が2倍以上あった。“興味がある”と“興味がない”はほぼ同率であった。この設問から対象児童群は、性に対してプラスイメージを持っていることがいえる。(表1)

2) 児童の性に関する知識 児童の性に関する知識では“知っている”と“少し知っている”を合わせると74.2%ある。“ほとんど知らない”と“知らない”を合わせると25.8%あり、具体的に知っているものは明らかでないが、何らかの知識は持っている。(表2)

表3は表2で“知っている”と“少し知っている”児童に対し、性に関する知識の入手先を設問した。男児では“先生”が42.7%と最も多く、続いて“友人”と“テレビ・ラジオ”が同率の11.0%である。女児は“先生”が30.1%，“両親”23.7%，“テレビ・ラジオ”17.2%，“友人”11.8%である。男児・女児に分けてみると、男児が女児を上回っているのは“先生”のみである。女児は“先生”と“両親”からの知識が5割以上に達している。(表3)

性のことに関して両親に質問したことがあるかどうかでは、6割が“ある”と答えている。男児で質問したことが“ある”のは48.1%であるのに対し、“ない”は51.9%と、ほぼ2分している。しかし、女児は“ある”が74.0%，“なし”が26.0%というように、“ある”が“ない”の3倍に達している。(表4)

3) 児童が性に関して知りたいこと

知りたいことを全体でみれば“エイズ”が28.4%，“思春期の発育”が24.1%，“子どもの生まれること”が19.9%である。男児では“エイズ”が32.8%で、次の“男女の身体のしくみ”の20.3%，“思春期の発育”18.8%を大きく上回っている。女児では“思春期の発育”が28.6%，“エイズ”が24.7%，“子どもの生まれること”が22.1%で、男児と女児に分けると知りたいことには差がある。(表5)

4) 両親の性教育への関わり

回答のえられた両親数は父親19名，母親27名であるため傾向としてのみとらえる。小学校での性教育の必要性では“必要あり”が大半である。家庭で児童から性に関する質問を“受けた”経験のある両親と，“受けていない”ものとは集計での差はほとんどない。父親では“受けていない”が“受けた”よりも多いのに対し、逆に母親では“受けた”が“受けていない”よりも多い。同様に家庭で性に関することを指導した経験も母親が“ある”に対して父親は“ない”か“ほとんどない”に集中している。家庭での性に関する質問や指導は、児童から母親にされていることから、小学校での性教育を必要とする母親が多い傾向がでている。(表6)

5) 児童・両親が望む性教育担当者と内容

児童が性の知識を教えてもらいたいもので最も多いのは“本”である。次に多いのは男児はクラス担任であるが、女児は“母親”である。3番目はともに“養護教諭”になっている。両親が性教育の担当者として望むのは“保健婦・助産婦”などの看護職であり、続いて“両親自

身”，そして“クラス担任”となっている。児童が望むものと両親が意図しているものとは差が生じている。（表7）

6）両親が小学校の性教育で必要と思うものと自身の経験

両親が小学校の性教育で必要と思うものは，“男女の身体のしくみ”が23.1%で両親間でもほぼ一致して一番多い。次に母親の“初潮”が必要と思うの17.0%に対して，父親は“性道徳”を15.7%があげている。思春期に関係するものが高位を占める中で“精通現象”は4.9%と低率である。また，両親が小学校の時に受けた性教育は“男女の身体のしくみ”と“初潮”であるが，父親で“初潮”をあげたものがない。両親自身が小学校の時に受けていなくても，児童の性教育として必要なものとして，“精通現象”や“性交”，“性被害”，“遺伝”をあげている。児童は自身が直面しているであろう，“男女身体のしくみ”や“思春期関連”のことを知りたいとしている。（表8）

7）両親が受けた性に関する質問と行った性教育的指導

両親，特に母親が児童から受けた性に関する質問は，“出産”が15.2%，“月経”が14.1%，“男女交際”が11.0%，“発毛”が11.0%の順になっている。家庭での性教育的指導のほとんどは母親が行っている。性に関して児童が知りたいことは“身体関連”が男女児とも50.5%を越えているが，両親が児童から質問されたものは“身体関連”と“結婚”と“男女交際”の順で3割を上下している。児童が知りたいことと両親に質問した割合がほぼ一致するのは，“結婚出産”に関することのみである。

考 察

性教育実施に際してよく聞かれることは，「性教育は小学校でしなければならないからしている。」，「集団宿泊訓練があるからその前にしておかなければいけないことになっている。」，「指導要領で規定されているからしている。」，「本来性に関することは家庭ですべきだ。」，「性教育は身体のことだから養護教諭の仕事だ。」，「学内の教職員がすると後で何か言われたとき対応に困るから，性教育に関しては学外の人材を活用する。」など受け身的な実施であることが多い。

小学校の卒業を控えた時期に6年生に行った今回の調査から，小学校での性教育の課題が示されている。児童は性に対してプラスイメージを持っており，性を大切にすることは生命尊重の教育が達成できたと考えられる。これが今後の性教育の基本理念になっていくと予測される。児童の性に関する何らかの知識は7割方が持っており，知識の入手先は男児は先生，テレビ・ラジオ，友人，先輩の順に知識を外に求めようとしている。女児は先生，両親，テレビ・

ラジオの順に内側で集めていることになるが、先生が男性か女性かでこの回答は変わってくる。児童が性に関して両親に相談したことがあるかどうかで女兒の7割が質問し、男児の半数以上が質問していないのは、両親のうちの母親が質問を受けていることが予想される。質問の内容から児童が知りたい3位までで、エイズ、思春期の発育は共通しているが、男児は男女の身体のしくみ、女兒は子どもが生まれることをあげている。男女の二次性徴の速度の違いがここにも現れていると考えられるが、男児・女兒の知識の入手先、質問の受け手、知りたいことの相違を把握して行う必要がある。

両親の性教育のかかわりでは、性教育の必要性は今回の両親の調査でも46名中41名が「必要である」と回答し、担当者に保健婦・助産婦の看護職員、両親自身、クラス担任、養護教諭、校医の順をつけている。児童に日常的にかかわる両親、クラス担任、養護教諭などの役割であることを表している。児童が人物ではなく、性に関することを教えてもらいたい一番に本をあげているのは、現在の性教育では満足できていないことと、口に出して教えてもらうよりも気楽に知識を得ることができる背景があると考えられる。両親が小学校の性教育で必要と思うものは自身が受けてきたもの以上に、精通現象や性交、性被害、遺伝などをあげており、社会の動きに合わせて性教育内容を変えていくことが指摘されている。しかし、家庭での性に関する質問で、児童が両親にしたものと児童が知りたいことで一致したのは、結婚出産に関することだけであった。家庭内での指導は母親が行っていることが多く、同性間の答えを求める男児の質問率を引き下げていると考えられる。男女共存社会を担う時代において学齢期での性教育は、個別的には一番身近な大人である両親が当たり、集団的には学校が担う役割分担が見えるマニュアルが必要であることが示唆された。

義務教育以降の性教育についてアメリカの実施状況を、エイズ予防財団リサーチレジデントの東は「高校における性教育の実施を望む親は8割を越え、エイズ予防教育ともなれば95%前後という高い支持率が得られている。アメリカの場合、学校で子どもが受ける教育の内容によっては、親の権限でその授業を欠席させることも実際に見られるが、『自分の子どもに性教育を受けさせないようにしたい』と答えた親は全体の5%にも満たないと言われる。」⁽¹⁾と報告している。アメリカの高等学校教育でエイズ教育が行われていれば、日本でもエイズ教育が継続される。また、エイズは今後も生殖年齢層に広がると予測されているので、学校でのエイズ教育は充足される可能性が高い。そこでエイズ教育から性教育へ質的に高めていくことが課題として残される。いずれにしろ性教育の必要性は生涯にわたって続くと考えられるので、幼児期から高齢期までの生涯学習における性教育（試案）を提示する。（表10）

性教育における家庭の役割は大きく、子どもが親元から巣立つまでは両親が性教育を担当することが多くなる。子どもが成長し、家庭を持った時点で担当者の世代交代が起こるが、家庭の場で行うことは継続されていく。学校は人間の発達段階に合わせた知育、体育、道育を行い、さらに生涯にわたる自己学習能力の基礎を培う場である。生涯学習課題の1つとして健康

教育があり、その中に社会的規範の影響をより多く受ける性教育がある。それに対し生産年齢期はライフサイクルにおける主軸を占める時期であり、社会的な生産と生殖を担う人間活動を集約した性教育が存在する。教育の内容は発達過程に合わせて行われるもので、人間の発達は一律ではないので各期前後での揺り動かしは生じる。また、学習場所は一般的な場所を想定しているため、個々の活動形態によりもっと幅広い場所が対象となる。生涯教育における性教育は健康教育がそうであるように、対象者のレベルや関心、社会の動きや価値観の多様化に合わせて行われる必要がある。

結 論

生涯にわたって学び続けることは、豊かな人生と豊かな老後を経て豊かな終末期を送るために必要なことである。生涯にわたって人生と表裏一体となる性の教育も同様である。高石は性教育の問題を、「性教育という表現は、わが国の教育課程のなかでは公式の用語としてはみられない。しかし、性についての指導の必要なことは、今や議論の余地はないところである。ただ、教育する側の指導能力の問題、社会や家庭における誤った偏見、性に関する価値観の多様化などのために、系統的な教育内容は、もうひとつ遅れているのが実状であろう。……中略……さらに、小・中・高等学校の特別活動などにおいても性についての指導は随時行われていると考えてよい。……中略……性教育は、決して保健教育の一分野として位置づけられるものではなく、学校教育、家庭教育、社会教育のなかで広く展開されるべきものである。近年の成熟早期化現象、性に関する情報の過多そしてエイズ対策の必要性という社会情勢のなかで、性教育の系統的な展開が今後は不可欠であろうと思われる。」⁽²⁾と述べている。小学校から高等学校まではそれぞれの学習指導要領により、何を学習するかが明細にではないにしても方向は決められている。

小学校高学年の性教育のすすめ方は、学習の主体者である児童のニーズから始まる。何を学びたいか、教育担当者が何を伝えたいか、何を学び取ってほしいか、児童を保護する両親は何を望んでいるかなども付加することである。そしてそれらのニーズが指導要領に即しているか、もし合わないものであれば、指導要領を変えることも必要であるし、合わない原因を探すこともしなければならない。

しかし、社会人として働き始める15歳、18歳以降の学習体系はなく、性教育を担当する職種も不明なまま、興味本位に氾濫する性情報の中に放り出される。性の情報量は多くても性教育本来の目的である生命尊重や人格形成にはほど遠い。氾濫する性情報の中から男女共存社会に必要な性知識、性行動の自己責任などを育成する自己学習能力の素地を作れるのは、学齢期の性教育である。ユネスコの学習権宣言に言われている、「主体的な活動として男女の差別なく、生涯にわたって持つことのできる権利」の一つに、性教育は包括されていると考える。

註

- (1) 東 優子：アメリカの性教育事情，週間保健衛生ニュース第915号，1997年，38頁
 (2) 高石昌弘：新版学校保健概説，同文書院，1994年，143～144頁

(なみかわ きょうこ 大分医科大学医学部看護学科) 1997年10月16日受理

表1 「性」という言葉から受けるイメージ

(複数回答) N=120 (男児58, 女児62) (%) ○順位

プラスイメージ	計	男児	女児
よい	46 (38.3)	25 (43.1)①	21 (33.9)①
楽しい	17 (14.2)	10 (17.2)	7 (11.2)
美しい	12 (10.0)	10 (17.2)	2 (3.2)
幸せ	26 (21.7)	18 (31.0)③	8 (12.9)
清い	13 (10.8)	4 (6.8)	9 (14.5)
上品な	12 (10.0)	10 (17.2)	3 (4.8)
きれい	11 (9.2)	8 (13.8)	3 (4.8)
恥ずかしくない	29 (24.2)	12 (20.7)	17 (27.4)③
興味ある	17 (14.2)	8 (13.8)	9 (14.5)
まじめな	40 (33.3)	22 (37.9)②	18 (29.0)②
マイナスイメージ	計	男児	女児
悪い	2 (1.7)	1 (1.7)	1 (1.6)
楽しくない	6 (5.0)	4 (6.9)③	2 (3.2)③
みにくい	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
幸せでない	3 (2.5)	2 (3.4)	1 (1.6)
いやらしい	8 (6.9)	6 (10.3)②	2 (3.2)③
下品な	2 (1.7)	2 (3.4)	0 (0.0)
きたない	2 (1.7)	1 (1.7)	1 (1.6)
恥ずかしい	11 (9.2)	4 (6.9)③	7 (11.2)②
興味がない	19 (15.8)	9 (15.5)①	10 (16.2)①
まじめでない	1 (0.8)	1 (1.7)	0 (0.0)

表2 性に関して何か知っているか

	計116 (%)	男 54 (%)	女 62 (%)
知っている	27 (23.3)	12 (22.2)	15 (24.2)
少し知っている	59 (50.9)	22 (40.7)	37 (59.7)
ほとんど知らない	18 (15.5)	10 (18.5)	8 (12.9)
知らない	12 (10.3)	10 (18.5)	2 (3.2)

表3 性に関する知識を何からえたか

(複数回答) (%) ○順位

	計	男児	女児
雑誌まんが	12 (6.8)	6 (7.3)	6 (6.5)
大人の雑誌	10 (5.7)	4 (4.9)	6 (6.5)
辞典医学書	8 (4.5)	4 (4.9)	4 (4.3)
テレビ・ラジオ	25 (14.3)	9 (11.0)②	16 (17.2)③
先生	63 (36.0)	35 (42.7)①	28 (30.1)①
電話相談	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
友人	20 (11.4)	9 (11.0)②	11 (11.8)
両親	29 (16.6)	7 (8.5)	22 (23.7)②
先輩	8 (4.6)	8 (9.8)③	0 (0.0)

表4 児童が性に関して両親に質問したこと

	計104 (%)	男 54 (%)	女 50 (%)
ある	63 (60.6)	26 (48.1)	37 (74.0)
ない	41 (39.4)	28 (51.9)	13 (26.0)

表5 児童が性に関して知りたいこと

(複数回答) (%) ○順位

性に関して知りたいこと	計	男児	女児
男女の身体のしくみについて	21 (14.9)	13 (20.3)②	8 (10.4)
思春期の発育について	34 (24.1)	12 (18.8)③	22 (28.6)①
結婚について	3 (2.1)	0 (0.0)	3 (3.9)
子どもの生まれることについて	28 (19.9)	11 (17.2)	17 (22.1)③
エイズについて	40 (28.4)	21 (32.8)①	19 (24.7)②
男女交際について	15 (10.6)	7 (10.9)	8 (10.3)

表6 両親の性教育への関心と参画

両親の性教育に対する関わり	小学校での性教育は			家庭で質問受けたこと			家庭で指導したこと		
	必要あり	必要なし	わからない	受けた	受けていない		ある	ほとんどない	ない
計	41	2	3	23	22		18	20	7
父親	16	2	1	7	12		3	12	4
母親	25	0	2	16	10		15	8	3

表7 児童が性の知識を教えてもらいたい人と両親が望む担当者

(複数回答) ○順位

児童が教えてもらいたい人	計(%)	男児(%)	女児(%)	両親が望む担当者	計(%)	父	母
父親	9(4.8)	8(8.7)	1(0.9)	両親	15(23.8)②	5	10
母親	41(20.4)	13(14.1)	28(25.7)②				
クラス担任	16(8.0)	16(17.4)②	0(0.0)	クラス担任	11(17.5)③	2	9
養護教諭	36(17.9)	14(15.2)③	22(20.1)③	養護教諭	9(14.3)	3	6
校医・保健婦・助産婦	22(10.9)	8(8.7)	14(12.8)	校医	4(6.3)	1	3
本	48(23.9)	18(19.6)①	30(27.5)①	保健婦・助産婦	22(34.9)①	9	13
テレビ・ラジオ	17(8.5)	9(9.8)	8(7.3)	その他	2(3.2)	1	1
その他	12(6.0)	6(6.5)	6(5.5)				

表8 両親が小学校の性教育で必要と思うものと自身の経験と児童が知りたいこと

性教育の内容	小学校の性教育で必要と思うもの ○順位			自身が受けたもの			児童が知りたいこと(表5)		
	計(%)	父親(%)	母親(%)	計	父	母	計	男	女
男女の身体のしくみ	42(23.1)	17(24.3)①	25(22.3)①	21	6	15	21	3	8
思春期	24(13.2)	10(14.3)③	14(12.5)③	4	2	2	34	2	2
初潮について	27(14.9)	8(11.4)	19(17.0)②	22	0	22			
精通現象	9(4.9)	3(4.3)	6(5.4)	0	0	0			
男らしさと女らしさ	14(7.7)	7(10.0)	7(6.3)	7	4	3			
受精について	18(9.9)	6(8.6)	12(10.7)	3	0	3			
性交について	10(5.5)	4(5.8)	6(5.4)	0	0	0			
性道德	25(13.7)	11(15.7)②	14(12.5)③	2	0	2			
性被害	8(4.4)	2(2.9)	6(5.4)	0	0	0			
遺伝	4(2.2)	2(2.9)	2(1.8)	0	0	0			
その他	1(0.5)	0(0.0)	1(0.9)	6	4	2			

表9 両親が児童から受けた性に関する質問と児童に対して行った性教育的な経験、性に関して児童が知りたいこと (複数回答)(%) ○順位

性に関する質問・性的な経験項目		児童から受けた質問			性教育経験			児童が知りたいこと*		
		計	父親	母親	計	父	母	計	男児	女児
身 体	発毛	13(10.2)	4	7(7.1)						
	乳房	6(4.7)	0	6(6.1)						
	月経	16(12.6)②	2	14(14.1)						
	性器の違い	7(5.5)	2	5(5.1)						
	小計	42(33.1)		32(32.3)	16	3	13	55(54.5)	25(58.1)	30(51.7)
動 物	交尾	7(5.5)	1	6(6.1)						
	雄と雌の協力	5(3.9)	1	4(4.0)						
	小計	12(9.5)		10(10.1)	2	0	2	———	———	———
結 婚 出 産	妊娠	10(7.9)	5	5(5.1)						
	出産	17(13.4)①	2	15(15.2)						
	結婚	11(8.7)	3	8(8.1)						
	父母の関係	3(2.4)	1	2(2.0)						
	小計	41(32.3)		30(30.3)	8	1	7	31(30.7)	11(25.6)	20(34.9)
性 的 交 遊	スカートめくり	4(3.1)	0	4(4.0)						
	身体に触れる	3(2.4)	0	3(3.0)						
	男女交際	14(11.0)③	3	11(11.1)						
	接吻	4(3.1)	0	4(4.0)						
	愛情	7(5.5)	2	5(5.1)						
	小計	32(25.2)		27(27.3)	12	1	11	15(14.9)	7(16.3)	8(13.8)

*児童が知りたいこと：表5を項目ごとに集計

表10 生涯学習における性教育（試案）

各期	幼 児 期	小学校前期	小学校後期	中 学 校 期	高等学校期	青 年 期	成 人 期	高 齢 期
教 育 内 容	基本的生活習慣の確立 生命の尊重 男女の違い 生命の尊重	基本的生活習慣の確立 健康のセルフケア 男女の身体のしくみ 疾病とけがの予防	第二次性徴の自己受容 性感染症予防 生命の尊重 疾病とけがの予防	性機能の発達経過 性の社会問題 性の自己制御 生命の尊重・避妊	生命の尊重 性感染症予防 性の自己制御・避妊	母性・父性の理解と協働 性の社会問題 性の社会問題 生命の尊重	次世代教育 生命の尊重 生命の尊重 性機能の変化	性機能の変化 男らしさと女らしさ
学 習 場 所	家庭 保育園 幼稚園	家庭 学校 子ども会	家庭 学校 交遊場所	家庭 学校 交遊場所 社会教育施設	家庭 学校 保健所 社会教育施設	家庭 職場 社会教育施設	家庭 職場 社会教育施設 学校	家庭 社会教育施設 交遊場所
主 な 担 当 者	両親・祖父母 医師・保健婦 周囲の年長者 保母 幼稚園教諭	両親・祖父母 校医・養護教諭 クラス担任・生活科 友人・兄弟姉妹 助産婦・保健婦	両親・祖父母 校医・養護教諭 クラス担任・理科主任 助産婦・保健婦	両親・祖父母 校医・養護教諭 クラス担任 助産婦・保健婦	両親・祖父母 校医・養護教諭 社会教育職員 助産婦・保健婦 保健所職員	両親 社会教育職員 職場医療職	社会教育職員 職場医療職	社会教育職員 福祉施設職員 医療施設職員 保健婦
媒 体	絵本・人形 植物・動物	書籍・視聴覚機材 植物・動物	書籍・視聴覚機材 植物・動物	書籍・視聴覚機材 避妊具・体温計	書籍・視聴覚機材 医療模型・避妊具	書籍 視聴覚機材	書籍 視聴覚機材	書籍 視聴覚機材

（なみかわ きょうこ 大分医科大学医学部看護学科）（1997年10月16日受理）